

令和6年7月19日（金）

石狩市立厚田学園

山下 直椰

1 単元名

第4章 近世の日本 2節 江戸幕府の成立と対外政策

2 単元や本時において、「対話を用いた主体的な学びと課題を創り出す授業」の関わりについて

既習済みの鎌倉幕府や室町幕府の終焉に要因をおさらいし、江戸幕府が安定した社会の構築によって大きな争いがなく長く続いたという前提のもと、どんな社会の仕組みを構築したのかについて、対話をもとにしながら予想し、各自疑問に抱いた課題を解決しつつ学習を進めていけるように単元をデザインした。

単元キーワードを使うのも一つの例ですが、必須ではありません。

3 単元の指導計画

	学習内容	対話活動
	単元キーワード：幕藩体制、武家諸法度（参勤交代）、京都所司代、禁中並公家中諸法度、身分制度、鎖国、出島、 単元を貫く学習課題：なぜ江戸時代は長く続いたのだろう。	
1	江戸幕府の成立と支配の仕組み	単元を貫く学習課題から予想し、対話によって自分の考えを広げ、各自学習課題の設定につなげる。
2	さまざまな身分と暮らし	身分ごとの生活についてまとめ、身分の序列についてグループ対話で確認し、なぜ身分制度が必要だったのかについて話し合う。
3	貿易の振興から鎖国へ	鎖国についてまとめ、鎖国をすることのメリット・デメリットを考え、鎖国をしたことで日本が最終的にどのような結末を迎えるのか予想をもとに対話を行う。
4	鎖国下の対外関係（本時）	前時の対話から鎖国下の日本が抱える課題について予想し、鎖国下の日本がどのように課題に対応していたのかについて調べ、対話を通じて考えをまとめる。
5	単元のまとめ	思考ツールと ICT 機器を用いて、グループによる対話で考えを深め、各自まとめを完成させる。

4 本時の略案

本時の目標

鎖国下の対外関係から課題を見だし、江戸幕府の外交について多面的・多角的に考察し表現している。

【思考・判断・表現】

評価

B 基準 自ら課題を見だし、その課題を解決するために教科書をもとに調べ、考察している。

書き方の一例です。想定される生徒が創り出した課題の例があるとより授業がイメージしやすくなります。

(例) 鎖国によって世界の情勢がわからなくなりそう【生徒が創り出した課題】

⇒対話から他の人の考えなどを比較し、本時の課題に対するまとめが多面的・多角的に考察し、まとめられていれば A とする。

〈指導の手立て〉グループ対話を用い、それぞれの考えを共有させ、課題を見だしやすくする。

考察に向け、教科書の資料について助言をし、指導を行う。

他の人の考えと比較できるように思考ツール等で助言を行う。

段階	学習活動	教師の指導	評価
導入 3 分	前時のふりかえり	学級内で出た鎖国によるメリット・デメリット、そして鎖国によりどんな課題が生まれるのかを予想する	
鎖国によって生まれた課題に対し、江戸幕府の対策は効果的だったのだろうか。			
展開 37 分	・ 自ら考えた課題を設定する（7 分）（個人～ペア思考） ・ 教科書をもとに、鎖国下の日本がどのような外交をしていたのかを調べ、まとめる（15 分） ・ 自ら考えた課題と対応するようなまとめの文章を考える（5 分）	・ 個人思考で課題が見つからない生徒に対し、机間指導における助言やペア思考を促す ・ 思考ツール等を活用しまとめられるよう助言を行う ・ うまくまとめられない生徒に対し、まとめにつながるキーワード等の助言を行う	評価【思考・判断・表現】

	・小グループ内で自ら考えた課題とまとめを発表し、他の人の考えと比較する (10分)	・他の人の考えをメモしながら聞くよう指示する ・様々な意見から、総合的に江戸幕府の対外政策は効果的だったかどうかを判断させる	
終末 10分	個人で本時のまとめを書く (5分) 本時のまとめの交流 (5分)	まとめを Excel シート等に共同編集で記入させる 数名のまとめを発表させる	評価【思考・判断・表現】

対話を助けるワークシート例



○ほかの人の考えは自分と同じ？違う？

違う	少し違う	トピック	少し同じ	同じ
		江戸幕府の 対外政策に ついて		